

1. 指定物件の表示及び所有者

指定区分	記念物
種別	史跡
指定名称及び員数	勸農社跡 1件 附 林遠里墓地 1件
所在地	勸農社跡 福岡市早良区重留4丁目338番1 林遠里墓地 // 353番1
所有者	林道生

2. 概要

勸農社は、明治16年（明治20年説もある）林遠里が開いた農業教師育成のための私塾である。

林遠里は、勸農社および実験水田において実業教師の育成を行い、1885年から1893年にかけて37道府県に464名の教師を派遣している。

1890年代より、政府の農業政策の転換によって勸農社は衰退、1900年には休止状態となった。

勸農社の施設は現在まったく残っていない。敷地は林遠里の子孫である林道生氏の宅地となっているが、当時の門・石垣が残り、勸農社当時の形状をよくとどめている。

林遠里は、1906年に病没。勸農社に隣接した岡の上に墓が営まれ、勸農社を巣立った実業教師らの手によって墓標を立てられて、現在に伝わっている。

なお、勸農社敷地の東側に実験水田の跡とされる水田が残り、林道生氏によって耕作されているが、周辺の宅地造成で水利が困難となり、水田の維持は難しい状況にある。

3. 法量

勸農社跡 福岡市早良区重留4丁目338番1 面積1,691㎡
林遠里墓地 // 353番1 面積155㎡

4. 指定理由

明治期の福岡地方は、日本農業の最先進地と位置づけられていた。近世までの日本稲作農法は、全国的に人力による浅耕・常時湿田・少肥によっていたが、福岡農法においては、畜力による深耕や乾田を特徴とし、高い収量を誇っていた。

明治政府は、維新後、農業収穫量の全国的な増大を目指した。この流れの中で福岡農法は注目され、全国的に奨励されるようになる。この畜力による深耕の全国的普及に大きな役割を果たしたのが、林遠里である。

林遠里は、天保2年(1831)、福岡藩砲術指南役林直内の次男として生まれた。明治3年(1871)、藩職を辞し、早良郡重留村に帰農した。

早くから稲の選種法を研究し、明治10年(1877)に『勸農新書』を著している。明治12年(1879)には、興産社を設立して、穀物育成や杉・檜の苗の育成を行った。また、明治14年から16年頃には早良区椎原村のワサビ保護育成にも乗り出したとされる。

林遠里の農法は、寒水浸法・土囲い法・冬蒔き畑苗代法を中核としながら、抱持立犁を用いた牛馬耕を導入したものである。明治14年(1881)第1回全国農談会で広く受け入れられるところとなり、翌15年の長崎県を皮切りに毎年全国からの求めに応じて巡回演説した。また、各地から教師の派遣を求められるようになり、明治16年(1883、明治20年説では1887)、勸農社を設立、実業教師の育成に励んだ。この時期、福岡県域から全国に派遣された教師は勸農社にとどまらないが、勸農社出身者だけで、明治18年(1885)から明治26年(1893)にかけて37道府県に464名もの教師が派遣され、各地で高い評価を得たことは特筆に価する。この間、明治25年(1892)には勸農社の規模を拡大し、早良区重留村に第1農場、那珂郡日佐村に第2農場、糸島郡長糸村に第3農場を設けた。

明治政府は、その活躍に対して明治18年(1885)に、藍綬褒章を送った。また、明治22(1889)年には農商務省よりドイツのハンブルグで行なわれた商業博覧会の農産物出品説明委員を命じられ、翌23年までフランス・アメリカ・インド・サイゴンなどの農業視察を行い、見聞を広めた。

しかし、遠里の農法は福岡農法の体験に基づいたもので、1890年代中頃、政府の農業政策が農学者の研究に基づいた学理的農法に転換するようになると、勸農社は急速に衰退した。1900年には、各府県で活躍する実業教師を残しつつも勸農社の活動はほぼ停止状態となっていた。

1906年、遠里は病没する。死後、勸農社から全国に派遣された実業教師らにより銅像建設計画も作られたが実現せず、1912年に高さ2.1m(基壇を含めると3.6m)に及ぶ墓碑が建てられた。

勸農社の施設は現存せず、主たる敷地は林遠里の子孫にあたる林道生氏の宅地となり、門柱・石垣のみが残る。ただし、宅地は勸農社当時の敷地の形状をとどめており、石垣も一部に後世の補修が認められるものの全体的にはよく残っているといえよう。

明治期には、日本各地で農業生産力が急増した。それを実現した明治農法の中にあつて、真に農業革命をもたらした農法は福岡農法のみであったといわれている。それは、福岡農法の中核をなす無床犁による水田の深耕技術のみが、明確に近世の農耕技術と隔絶していたからであるが、この福岡農法を全国各地に普及するのに大きな役割を果たしたのが林遠里であり、遠里が設立した勸農社であった。

明治期、福岡農法の全国的普及を担い、日本の農業革命を推進した勸農社跡を、福岡市の歴史的な特性をよく表し、また全国の農業技術改良に影響を与えた遺跡である点から史跡として指定する。

また、勸農社跡に隣接して林遠里の墓地がある。派遣教師の手になるもので、勸農社を興し、わが国の農業技術の歴史に大きな足跡を残した林遠里の墓所として、福岡市にとって意味深いことから史跡の附指定とする。



勸農社遠景



左手は勸農社本社跡
右手は農場跡？



勸農社跡に残る門



勸農社跡石垣



門柱背面
明治26年12月建立
山辺信らは実業教師



林遠里 墓地